

「梅さん」。福島第一原発でそう呼ばれて頼りにされた男がいた。梅松悟(60)。日立フルントテクノロジーから東京電力に出向していた電気工事のペーラーだ。3月12日に立川市に搬入された大物搬入口にいた。朝、梅松は2号機タービン建屋南側に電気工事のペーラーたたけだした。ケーブルでつなぎ電源盤と電源車を2号機の低圧系配電盤と電源車をケーブルでつなぎ電源車を復旧させるため、東電や日立約30人が全員マスクで現場の防護服姿で集まっていた。梅松は島根原発、敷賀原発など各ケーブルは一気に重さが6tの発電所工事に携わってきた。四田ヶ丘。引きずるといはできなり。一方半世紀前にはじめ福島第一原発の4号機建設現場で電気工事の監督も務めた。松は現場のまとめ役だ。搬入口にパックでついたトラックの荷台には8tの字に巻かれた長い電源ケーブルが載っていた。

ケーブル敷設



■ 第2章「1号機爆発」

証言 福島第一原発
全電源喪失の記憶

6

「梅さん」。福島第一原発でそうかる重さは30t以上だ。梅松たちは両手でケーブルを持ち、梅松の指示通り5mの間隔でゆっくりと運んでいた。一人にかかる作業員たちは西海岸にいた。建屋の脇にいた梅松が注意した。「建屋の一階は外の地面より低いです。だから津波が残ってありますよ。人がケーブルを握って一歩も歩かないうちに次々と水浸しなのですね。放射線管理の鉄則から言っても絶対に入っちゃいけないんだけど、そんじと言つてしまつ。複雑な構造の建屋内に150人以に入つて行きましたね」と梅松の息子より若い彼の声は震えていた。「簡単そうで実際にはつがいに行く東電社員に話しおかれただよ。高電圧を通すケーブルなんですよ。梅松の息子より若い彼の声は震えていた。「梅さん、俺怖いんだ…」梅松は島根原発、敷賀原発などを知らない。ケーブルは一気に重さが6tの地の発電所工事に携わってきた。四田ヶ丘。引くといはできなり。一方半世紀前にはじめ福島第一原発の4号機建設現場で電気工事の監督も務めた。松は現場のまとめ役だ。搬入口にパックでついたトラックの荷台には8tの字に巻かれた長い電源ケーブルが載っていた。

電源車と同型車 2013年2月
(東京電力提供)

所でも傷つけてしまえば、通電でき、号機建設現場で電気工事の監督も務めた。松は現場のまとめ役だ。搬入口にパックでついたトラックの荷台には8tの字に巻かれた長い電源ケーブルが載っていた。

「梅さん、俺怖いんだ…」梅松は島根原発、敷賀原発などを知らない。ケーブルは一気に重さが6tの地の発電所工事に携わってきた。四田ヶ丘。

「梅さん、俺怖いんだ…」梅松は島根原発、敷賀原発などを知らない。ケーブルは一気に重さが6tの地の発電所工事に携わってきた。四田ヶ丘。

「梅さん、俺怖いんだ…」梅松は島根原発、敷賀原発などを知らない。ケーブルは一気に重さが6tの地の発電所工事に携わってきた。四田ヶ丘。

「梅さん、俺怖いんだ…」梅松は島根原発、敷賀原発などを知らない。ケーブルは一気に重さが6tの地の発電所工事に携わってきた。四田ヶ丘。

「梅さん、俺怖いんだ…」梅松は島根原発、敷賀原発などを知らない。ケーブルは一気に重さが6tの地の発電所工事に携わってきた。四田ヶ丘。

「梅さん、俺怖いんだ…」梅松は島根原発、敷賀原発などを知らない。ケーブルは一気に重さが6tの地の発電所工事に携わってきた。四田ヶ丘。

「梅さん、俺怖いんだ…」梅松は島根原発、敷賀原発などを知らない。ケーブルは一気に重さが6tの地の発電所工事に携わってきた。四田ヶ丘。

「梅さん、俺怖いんだ…」梅松は島根原発、敷賀原発などを知らない。ケーブルは一気に重さが6tの地の発電所工事に携わってきた。四田ヶ丘。